

# 絵本っておもしろじゃ

第一分科会 講師 ‘おどっつあんず’ 佐藤敦士先生

第一分科会 絵本っておもしろじゃ では、岩手県の宮古市で活動している ‘おどっつあんず’ のクラウンシュガーこと佐藤敦士先生にお話しをしていただきました。

岩手県の沿岸に位置する宮古市は、東日本大震災による被害を受け、仮設住宅での生活を余儀なくされた方々がいました。

敦士先生は、以前は沿岸の中学校にお勤めされていたこともあり、子供たちを楽しませ、自分にできる事をしようとクラウンの姿になったそうです。あの大津波は子供たちの心にも傷跡を残し、笑顔をも消し去ってしまいました。多くの子供達を見てきた先生は、子供たちの笑顔を見たくて、クラウンシュガーとなり、楽しいパフォーマンスを各地で続けてこられました。(被害は宮古だけではなく、敦士先生は各地の保育所などを訪問し、マジックや読み聞かせ等のパフォーマンスをしていただきました。)

敦士先生は以前から加入していた宮古市の読み聞かせグループ ‘おどっつあんず’ のメンバーとしても、歌や手品、バルーンアートを織り交ぜながら読み聞かせ活動を行っています。場所は宮古市内の図書館での読み聞かせから、三陸鉄道を二両貸し切りで160名を招待して‘三鉄お話し列車’と題して、列車の中で読み聞かせを行ったり、様々な所でパフォーマンス活動を行っています。

さらに、宮古市の中高生に対して読み聞かせの指導も行い、先生の講座を修了した生徒は、MYK48としてグループを作り、読み聞かせの後継者を育てる活動も行っています。(宮古読み聞かせの会 48は目標メンバー数。現時点では半分ほど。) MYK48は、おどっつあんずと一緒に各種イベントで活動しています。

佐藤敦士先生は、絵本とは男性が子育てに参加するための、子供とふれあうためのツールだとおっしゃっていました。というのは、女性、母親では読みにくいような絵本(うんちっちなど)でも、男性、父親は面白可笑しく、子供と一緒に楽しめる。という点で、女性にはできない、男性だからこそその楽しみ方ができます。敦士先生は実際にうんちっちなどという絵本を読み終わったあと、先生がかぶっていた帽子を取ると頭の上にもうんちが乗っている。というようなこともしておられました。

最後に、絵本はこどもたちが楽しむためにあるという事、こどもとふれあうためのツールであるという事、私の言葉では敦士先生のお話しのすべてをうまく表すことができませんが、以上で第一分科会の報告を終わります。